

# 福島大学は皆さんの活躍を期待しています

「歴史が変わる」とさえ言われる今回の災害に遭遇して、福島大学は、学生諸君と共にこれに立ち向かう教育、そして研究を發展させていかねばならないと考えます。未経験のきびしい環境の中にあえて飛び込んで、その中から、他の何ものにも代え難い人生の糧を得んとする学生諸君の登場を、心から期待しています。

## 1. 学生の生活環境改善へ取り組みます

### 福島大学の除染計画

福島大学は、学生がより安心・安全に生活できる環境の確保に努めるべく、平成24年7月から8月にかけてキャンパス内のU字側溝、および高線量地点(ホットスポット)に溜まった落ち葉や土砂等の除去と洗浄作業を実施しました。

平成23年10月には中長期的な除染計画の方向性を決定し、大学構内での生活環境の安全性確保に向けた以下の行動計画を実施することを学長メッセージでお示ししています。

『福島大学は、長期的には、大学構内における追加被ばく線量を年間1ミリシーベルト以下とします。屋内においては毎時0.1マイクロシーベルト程度となっていますが、平成24年4月までには、大学構内における屋外の生活域の放射線量を毎時1.0マイクロシーベルト以下にする除染計画を立てて実現を目指します。』

#### ★今後の除染の着工予定

- ① サッカー・ラグビー場、野球場、馬場(表土除去期間 平成23年11月中旬～)
- ② 陸上競技場(芝生部)、テニスコート(表土除去期間 平成24年2月中旬～)
- ③ 中央広場(期間 平成24年2月末～)

#### ★放射線に関する取り組みや計測データはHPからご覧になれます。

<<http://www.fukushima-u.ac.jp/guidance/top/torikumi-housyasen.html>>



福島大学から世界へ 元気を伝える笑顔のメッセージプロジェクト

### 福島市内の生活環境

学生の多くが居住している福島市では、「福島市ふるさと除染計画」(第1版)を示して、除染は福島市が主体となって全力で取り組むこととしています。目標として、今後2年間で、市民の日常生活環境における空間放射線量を市内全域で毎時1.0マイクロシーベルト以下にすることを目指すことなどが挙げられています。

市内全域を除染の対象としていますが、市による放射線量測定結果等により、安全安心の緊急度を考慮して優先度を定め、当面は、以下の範囲を重点的な除染対象としています。

- ① 市民が日常を過ごす環境… 個人住宅、集合住宅およびその周辺の生活環境
- ② 市民に身近な公共施設… 学校、保育所、道路、公園、児童遊び場、その他公共施設等

## 2. 学生の授業環境の向上をめざします

### 原子力災害や放射線に関する科目の開設

福島大学は原発事故の被災大学でもあり、この原発事故を契機に、これまで放射能・放射線教育について無関心であったことを率直に反省し、本年後期から開講しました「原子力災害と地域」という科目に加えて、次年度から、環境放射線や健康問題、放射性物質の除去技術などの高い認識をもった人材育成をめざした新たな科目開設を検討しています。また、地域と人間の復興を目指し、被災者支援や地域調査などを実践する機会も用意しています。福島大学では、こうした経験や学修を通じた人材育成を行っていきます。



講義風景

### ボランティア活動の単位化

東日本大震災直後から、多くの学生がボランティア活動で活躍してくれました。こうした経験は学生にとって貴重な財産になるとともに、通常の座学では得られない体験を活かし、将来、東日本の復旧・復興の礎となって活躍してくれることを願って、ボランティア活動を単位化してその活動を支援することとしました。(実習科目に相当し、45時間で1単位、90時間で2単位となります。)次年度以降は、ボランティア活動をさらに充実させ、あらゆる災害ボランティアを含めた単位化を検討しています。

### 3. 学生の自主的な活動を応援します

「大学と地域の英知を結集してふくしま復興を！」の学長メッセージのもと、学生一人一人が様々な活動へ積極的に取り組んでいます。

#### ◆「学生団体災害ボランティアセンター」の設立◆

支援を必要としている福島県民・仲間を支えることにより、大学、そして福島県を元気にしたいという熱意を持つ学生たちが活動・奮闘する場として、学生団体「福島大学災害ボランティアセンター」を設立しました。被災地支援や募金活動、各種イベントを企画して活動しているほか、足湯活動などユニークな取り組みも行っています。

#### ◆「ルーマニア・日本 ユースプロジェクト」への参加◆

ルーマニア政府主催による「ルーマニア・日本 ユースプロジェクト」への招待を受け15名の学生が参加してきました。この研修旅行は、ルーマニアの黒海地域・首都地域・山岳地域で行われ、主に民間のNGO団体や、各地域の日本語学習生との交流が企画されました。これから地域の再生を目指す学生にとって強い刺激となり、ルーマニアで得た貴重な経験を、新たな勉学活動の原動力とする事が期待されています。

#### ◆「第47回福大祭」の開催◆

今年は「Peaceful ～福島より愛をこめて～」をテーマに大学祭を開催し、地域のみなさんへ元気な福大生を見せてくれました。Peaceful には、平和な・穏やかな・温和なという意味があり、実行委員会全員の“願い”とこれからの福島に対する思いが込められています。



避難所の炊出しの様子



ルーマニア訪問の様子



第47回福大祭

### 4. 災害復興の拠点大学をめざします

福島大学では、地域の復興に向けて行動する組織として「うつくしまふくしま未来支援センター」を設立しました。困難を乗り越えて被災地を復旧・復興させようと立ち上がっているふくしまの人々とこれからも力を合わせ、新しい地域づくりのビジョンと方途を提案する役割を担い活動しています。

#### ◆～産業復興への取組み～「復興マルシェ」の開催◆

福島県は、原発事故以後の農産物流通の新しいあり方を構築することが急務となっています。「福島大学まちづくり株式会社マルシェF」では、学生が主体となり、福島の農産物をどうしたら安全に提供できるのかを考え、復興をテーマに農産物の検査体制について各地の情報を提示したマルシェ（青空市）を開催しました。



マルシェ出店者と学生

#### ◆～地域復興への取組み～

#### 「双葉郡8町村対象の災害復興実態調査」の実施◆

県内外に広域避難された双葉郡8町村（浜通り地区）の約3万世帯を対象に、住まいと暮らしの実態について学術的に調査を実施しています。今後の生活再建等に向けた課題を把握して、双葉地方の復興に役立てていきます。また、「ふたばはひとつ」をテーマとして、双葉地方のまちづくり・未来づくりについて考える双葉地方住民による震災復興シンポジウムも開催しました。



シンポジウムのポスター